



B2

ニュースレター

2024/9/30

入稿直前！くろまつないマルシェ開催しました！

【令和6年度の上半年を振り返って】

皆さま、こんにちは。事務局長の河又です。
地域活性化起業人として黒松内町に着任してから、はや半年が経ちました。

その間、黒松内岳の山開きから始まり、観光協会の通常総会を経てふるさと応援特産品宅配便運送事業や、直近ではシルバーウィークの道の駅マルシェなどさまざまな経験をさせていただきましたが、皆さまには協会活動に関するご支援・ご協力はもちろんのこと、右も左も分からない北海道初心者に対する生活面での温かいアドバイスに至るまで、公私にわたってフォローいただき本当にありがとうございます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

振り返れば、あっという間の半年間でしたが、この上半期の活動状況を簡単にまとめますと、トピックスは以下の2点になろうかと思えます。

まず、今期の目標にも掲げておりました「期初計画に基づくアクションプランの着実な実行」という点については、メンバーの半分が交代するという大きな変革の中でも、ベテランスタッフを中心に相互の連携と確認を徹底したことにより、大過なく計画通りに実行することができました。

一方、本年度はコロナの5類移行後、初めて迎えるグリーンシーズンということもあり、前年を超える需要の伸びが期待されましたが、インバウンドの外国人旅行者や釣りを目的に道の内外から訪れる日本人旅行者を中心に一程度の手応えは掴むことができた半面、いくつかの複合的な理由（天候事由による取り消しや、マーケット環境の変化による少人数化、我われの体制面における構造的な課題など）により思ったほどの増収には至らず、成果としては「堅調」レベルにとどまりました。

さまざまな制約もある中で我われ観光協会が自力でやれることは限られていますが、来る第3四半期においてはこれらの課題を整理・分析し、スタッフみんなの知恵を集めて「次年度に向けた戦略の見直し」とそれにマッチした「体制のアップデート」の2つをしっかりと進めてまいりたいと思います。

会員の皆さまにおかれましては、引き続きご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

以上

10月の観光協会の主な事業
「秋のグルメフットパス」

【上期を振り返って】
あっという間の上半期
メンバー入替後の観光協会を振り返り

【事業レポート①】
3年ぶりの鮎の塩焼き販売！

【事業レポート②】
札幌パルコのイベントに参加！
おしゃれじゃないおじさんのオシャレビル
でのお仕事の話

【じり通信No.33】文：山本竜也
むかし大阪の偉い(?)お坊さんが♪
倒れます

【フットパスクラブ通信Vol.17】
これはチョボシナイコースの整備に命を
懸けた男たちの物語である
なんちゃらえーつくす

【ATコンテンツ発掘相談会】
自然の中で癒されたい
そんなあなたにブナセンター水本氏から
のメッセージです

【事業レポート③】
生憎の雨だけど今年も出店ビーフ天国！

協会主催・協力イベント

秋のグルメフットパス
10/20(日)予定

今年も秋のグルメフットパスの季節がやって
まいりました！
今回は夏のイベントで行けなかったチョボシ
ナイコースリベンジです。
詳細は事務局まで！

事業レポート①

3年ぶりに鮎の塩焼きを販売

8月10日～16日までのうち5日間、道の駅くろまつないの芝生広場にて朱太川の天然鮎の塩焼きを販売しました。鮎の仕入れ先は朱太川漁業協同組合所属の鮎釣り名人たち。今年は例年以下の釣果とのことで、在庫が少ないにもかかわらず鮎を譲っていただきました。(感謝！感謝！です。)

そんな貴重な鮎をぶっつけ本番で串打ちをして、粗塩振って、炭で焼いてお客さんに提供しちやいましたが、皆様「美味しい！」とおっしゃっていただきました。驚いたのは20代の若い女性が1本食べたと思ったらすぐに来て「美味しかったからお代わりください！」と言ってもう1,000円払って購入して下さったこと。他にも「鮎を食べたことがなかったけど、こんなに美味しいんだ」などの声も。そう！朱太川の鮎は素人の私が焼いても美味しい鮎なのです。

何だか通販番組の様になってしまいましたが、今回も朱太川の鮎をPR出来たかと思えます。年々朱太川に鮎を目当てにした太公望も増えております。この良い流れのまま今後も朱太川の天然鮎を推していきます。



一本1,000円の高級魚でしたが、連日完売の人気ぶり

<編集後記> 今年の全国利き鮎会はちょうど原稿締め切りの20日開催なので結果をお伝え出来なくすみません。今後またグランプリが獲れることを願っております。(古本)

事業レポート②

おじさんパルコに立つ

パルコ、4プラ、ピヴォ、アルシュ・・・大通周辺のファッションビルいっぱいありましたねえ。オサレに興味ない野郎にとってはその辺のビルには全く縁がないわけですが、なんとパルコの中にある無印良品のイベントに色々あって黒松内町観光協会として出店することとなりました。

今回参加したのは“つながる市番外編『第2回わたしたちの食卓』”という企画。テーマは、『おいしいって幸せ。』その幸せが食卓にあがるまでを支える人たちが集まるマルシェ

冷蔵庫的なものがなく生ものは厳しいという状況で、これといった強い特産品がないことでおなじみの黒松内町からは、お菓子、ジャム、珍味などを持って参加してきました。(日曜日はaimerから品物だけでなく大藤さんも直接参加)

お世辞にも成功とはいえない成果ではあったが、まあまあデータはとれたかなと思っています。

反省点としては今回はテーブルの上がスカスカになるのを恐れて色々種類をかき集めて持っていったが、もう少し品数減らして見せ方変えて、一つ一つの商品をもう少しアピールできるようにすればよかったかなあ？

パルコの無印に来るような人はどういうものに食いつくのか？の調査と思えば今回はまあ・・・というところですね。

他にも色々反省点があるので次回どこかで店を出すときの参考になるようもう少し考えてみたい案件でした。(遊佐)

この後すぐコロナかかってめっちゃ咳と鼻水出た



素人おじさんsの展示 (2日目多少改良版)



慣れた人の展示

じり通信No.33

行き倒れた男

1887年（明治20）9月某日、歌才川のほとりで行き倒れの男が見つかった。死後数日たっており、顔は分からない。五分の斬髪、瘦せ型で、背は低く、両脛に病気の痕がみえる。縞の単衣（ひとえ）と半纏、禪、脚絆を身につけている。検視のうえ、仮埋葬したが、この男を知る人があり、大阪府南区大宝町中ノ丁の円融寺住職、森原正潭の弟子で、嵯峨大円だと判明した。生まれは1848年（嘉永元）5月5日から、まだ39歳である。

黒松内村戸長役場は、森原住職に故人の原籍や親族を問い合わせたものの、どちらも分からないと返事があったという。心当たりがある者は役場に連絡してくれと北海道毎日新聞（1888年2月16日付）に載っている。現在の行旅死亡人と同じ扱いを受けたようだ。

明治時代の北海道には全国から人が流れてきた。この僧侶も布教目的に新天地を目指したのかもしれない。志なかばで、黒松内で倒れたのだろうか。興味はあるが、これ以上調べようもない。大阪の円融寺もすでに廃寺となっている。

廣
告

大坂府下南區大寶町中ノ丁
圓融寺住職森原正潭弟子
嵯峨大圓
嘉永元年五月五日生

身體瘦タル方○面部不詳(死後時日經過ノ爲)○兩脛ニ
病痕アリ○丈低キ方○頭五分斬髪○着衣縞單半天壹○
脚半壹○中當村字ウツサイ川端ニ於テ倒死者有之ニ付
昨年九月成規ノ通假埋葬候處前記名者ノ由聞知候ニ付
檢視之上成規ノ通假埋葬候處前記名者ノ由聞知候ニ付
右森原師方ノ原籍取調之義該管轄總ノ照會候處今般
同人原籍及親族共不明之趣回答有之候餘心當リノ者
ハ速ニ當役場へ申出へシ
右廣告ス
明治二十一年二月十六日
北海道壽都郡黒松内村戸長役場

世の中便利(?)なもので今ではデータベースもあるんで少し見てみました。★行旅死亡人データベース(<https://kouryodb.net/>)★
老若男女、結構な人数のいわゆる行き倒れさんがいるんですね・・・
もしも怪しい腕時計をしたメガネのスクーパー小学生がいたら・・・あれれ～？(事務局：遊佐)

フットパスクラブ通信 Vol. 17

フットパスコース『チョポシナイコース』整備の実施

黒松内フットパスクラブの活動の一環でチョポシナイコースの整備のため草刈りを行っております。約10kmあるチョポシナイコースを3区間に分け、年に7日ほどかけて5名体制で行われました。コースの両脇にあるイタドリや笹などが通行の邪魔になっている箇所が多くあり、倒木処理が必要となるなど整備作業が困難を極める事もあります。また、遠方から来られた方がコース上に肥沃な土地にしか生息しないと言われているオオウバコリを発見し大変気に入っていただいた事をきっかけに、コース整備時にはオオウバコリを刈らないというルールも出来ました。そのため作業者は誤って刈らないよう常に気を配っております。

8月10日（土）に開催される予定でしたフットパスイベント「夏のチョポシナイコース WALK'n TRAIN」は、事前にコース整備のため草刈りを行ってまいりました。ところが、フットパスクラブが事前踏査のためチョポシナイコースを歩いたところ、熊糞を発見し役場へ報告したところコースの一部が一時閉鎖となり、残念ながらイベントは中止となりました。

次回のイベントは10月20日（日）で再度チョポシナイコースの一部を使用する事となりました。9月12日に最後の草刈りの日程を終え、危険箇所にトラロープを張るなどイベントに向けてコース整備は万全に行われております。今回は無事にイベントが催行される事を願っております。(事務局：岡本)



ATコンテンツ発掘相談会に参加しました

7/17 ATの専門家からの意見を聞けるということで、観光協会からはCoastToCoast(自転車)、ブナセンターから水本氏の提案する癒しのブナ林ツアーについて意見を伺いました。今回参加された水本氏からのメッセージです。

当町では、数年前から、地元の森を活用して町民の方に元気になっていただけるよう、森林療法活動を行っています。

この度、専門家の方々をお招きし、この活動が「アドベンチャートラベル」の一要素として観光にも活かせるかを検討する、現地視察会を行いました。
※「アドベンチャートラベル」とは、ふつう『アクティビティ』『自然』『異文化体験』の三つの要素のうち、二つ以上を組み合わせた旅行のことをいいます。観光協会でも、当町での実現を目指しています。

黒松内町の森をゆっくりと散策し、木漏れ日を見上げて林内で寝そべる…そんな普段の活動は、専門家の方々からも大変好評でした。海外からの観光客向けの初心者コースとして、あるいは日本人観光客でも心身のリラックスを求める方々への選択肢として、黒松内町の新たな観光資源となる可能性が示唆されました。

黒松内町の森で心身ともにリフレッシュできる「癒しのブナ林ツアー」。新たな魅力の一つとして、多くの方に知っていただけるよう、今後も活動を続けていきます。



事業レポート③

雨にも負けず！ 今年もビール天国で出店！

7月27日（土）に「ビール天国まるっと黒松内2024」が昨年と同様の規模での開催となりました。観光協会は今年も出店し、スタッフもお祭りの雰囲気を楽しみながらの販売となりました。

販売物は昨年同様に黒松内サイダー、さらには酔り道百桃直伝のビールとサイダーのカクテル、それらの購買意欲を誘うものとして相澤精肉店の若鶏味付け、今年にはさらに味付きホルモンを追加して炭火焼にして販売しました。

昨年の猛暑とは打って変わって今年は雨天での開催となりました。天候が異なると売上の傾向も昨年とは大きく異なり、開始直後から若鶏、ホルモンの炭火焼が好調で、焼き台は大忙しで焼き上がり待ちが出来るほど。雨天という状況でもあったため、お客さまには予約制とし推定焼き上がり時間をお伝えする事なるべく列を作らないように努めました。昨年とほぼ倍の量のお肉を仕入れましたが、ピークを迎える頃には売り切れとなりました。天候の影響でサイダーの販売は想定していたより伸びませんでした。それでも多くのお客さまが訪れ盛況と言えたのではないかと考えております。(事務局：岡本)



観光協会HPにて[B2]バックナンバーがご覧になれます。

www.bunatatourism.com

印刷版をご希望の方は観光協会までご連絡ください。